

日本児童英語教育学会

(The Japan Association for the Study of Teaching English to Children)

第 32 回 (2011 年度第 2 回) 中国四国支部 研究大会のご案内

清秋の候, JASTEC会員の皆様におかれましては, 益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。また, 平素は日本児童英語教育学会中国四国支部の発展のためにご協力いただき, ありがとうございます。

ついに今年度より外国語活動が始まりました。各小学校において試行錯誤の中, 外国語活動に取り組まれていることと思います。

本研究会では1つの実践的研究報告, 2つの研究発表, そしてワークショップが行われます。実践的研究報告では, JTE(日本人の外国語活動支援員)の視点からのティーム・ティーチングのあり方についての報告が行われます。また, 研究発表では, 「自然な英語の会話リズムに基づくチャンツ」への学習者の意識に関する調査結果と, 目標言語の使用を考慮した授業の組み立て方に関する発表が行われます。ワークショップでは, 「英語の音遊び」と題して音声指導について実際の体験を通してご紹介いたします。

今大会が小学校外国語活動に関わる先生方, 児童英語教育の現場でご活躍の皆様にとりまして, 有益な情報を発信できる大会になると確信しております。JASTEC会員はもとより, 小学校や児童英語教育の現場でご活躍の皆様, また小学校外国語(英語)活動, 児童英語に関心をお持ちの皆様, どうぞお誘い合わせの上, 多数ご参加くださいますようご案内申し上げます。

敬具

2011 年 10 月 31 日

日本児童英語教育学会・会長 矢次和代
同 中国四国支部・支部長 國本和恵

記

日時 : 2011 年 11 月 27 日(日)

午前 10 時 受付開始 16 時 10 分終了

会場 : 「ひろしま国際センター」

広島市中区中町 8-18 広島クリスタルプラザ 6 階, TEL (082)541-3777

ホームページ <http://hiroshima-ic.or.jp/>

アクセス情報 <http://hiroshima-ic.or.jp/hic/map.html>



※ 研究大会参加費: 一般(大学院生を含む)1,000 円, 学部学生 500 円
(JASTEC 会員は無料, 賛助会員は 3 名まで無料)

※ 研究大会の参加予約は必要ありません。当日, 会場の受付までお越しください。

【 問い合わせ先 】

JASTEC 中国四国支部事務局 (<http://www.jastec.info/>)

739-8524 東広島市鏡山 1-1-1 広島大学 大学院教育学研究科 松宮奈賀子研究室内

TEL & FAX: 082-424-4536 (直通) / E-mail: nagako@ab.auone-net.jp

研究大会プログラム

10:00 受付開始

午前の部 司会 中根 千春 (Fun Can 英語教室)

10:20-10:30 開会の挨拶

JASTEC 中国四国支部長 國本 和恵 (子供英語)

10:30-11:10 実践報告 (40分)

「豊かな小学校外国語活動のために

- HRT の願いと JTE の思いをいかし、
一緒に創りあげる授業を目指して —

加納 清美 (米子市外国語活動支援員)

11:10-11:50 研究発表 (40分)

「ターゲットランゲージを使用した指導方法

- Teacher Talk の範疇を超えて —

山下 千里 (玉川大学)

11:50-13:00 昼休み

午後の部 司会 平本 哲嗣 (安田女子大学)

13:00-14:30 ワークショップ (90分)

「英語の音遊び」

名合 智子 (中国短期大学)

14:30-14:40 休憩

14:40-15:20 研究発表 (40分)

「グレアム・チャンツに対する学習者の反応

- ワークショップ参加者を対象とした
質問紙調査と音声分析の結果から —

有馬 千香子 (島根県大田市立朝波小学校)

15:20-15:30 休憩

15:30-16:00 全体討議 (30分)

16:00-16:10 閉会の挨拶

五十嵐 二郎 (広島大学名誉教授)

発表要旨

①実践報告

「豊かな小学校外国語活動のために

- HRT の願いと JTE の思いをいかし、一緒に創りあげる授業を目指して —
加納 清美（米子市外国語活動支援員）

外国語活動が完全実施されるにあたり、「担任だからこそできる」素晴らしい実践報告を見聞きすることも多くなった。しかし、担任教師の思いや ALT の存在意義は伝わっても、日本人支援者の思いが見えないこともよくある。小学校教育と児童英語教育の両方に携わった経験から、JTE の立場から TT を意識した実践を報告すると共に、小学校教育の中で、豊かな外国語活動の時間を提供するための JTE としての関わりを考えてみたい。

②研究発表

「ターゲットランゲージを使用した指導方法

- Teacher Talk の範疇を超えて —

山下 千里（玉川大学）

「英語で授業をする」場合、教えるプロセス自体に英語でのコミュニケーションが発生する。プロセスを大事にするには、従来の授業に Teacher Talk を加えるだけでなく、授業を組み立てる観点を変える必要がある。日本語を用いる時よりも細かいステップを踏み、言語にだけ頼らずに、児童が自然に理解できるように工夫する。指導者と学習者で交わされる教室での実際の英語のやり取りは、英語でのコミュニケーションそのものでもある。

③ワークショップ

「英語の音遊び」

名合 智子（中国短期大学）

英語と日本語のパスバンドはかなり異なる。日本語は 125 から 1500 ヘルツの高さで使用されているが、英語は 2000 から 10000 ヘルツの高さで話されている。このことが、日本人が英語の聞き取りを苦手としている理由の一つと考えられる。また、人は年を重ねるにつれて、高周波音の聞き取りが困難になる。よって聴覚が柔軟な子どもの時にこそ、英語の音を聞かせたいと考える。本ワークショップでは **Phonemic Awareness**(音素認識)を高める、高周波の英語の音に遊びながら慣れる活動を紹介したい。

④研究発表

「グレアム・チャンツに対する学習者の反応

- ワークショップ参加者を対象とした質問紙調査と音声分析の結果から —
有馬 千香子（島根県大田市立朝波小学校）

チャンツが日本の英語教育に導入されたきっかけは、韻律指導の教材として紹介された Carolyn Graham(1979)*Jazz Chants for Children* である。しかし、以前に筆者が小学校教員を対象とした調査では、グレアムが提唱した自然な英語の会話リズムによるチャンツへの支持は少なかった。そこで、本研究では、グレアム・チャンツを学習者はどう受け止めるのか、学習者の意識と韻律指導の効果を、質問紙調査と音声分析を通して明らかにしたい。